指導と評価の年間計画（シラバス）

学校番号	1205
大阪府立岬高等学校　総合学科	

平成　31 年度　　芸術　　科

教科	芸術　　科	科目	美術Ⅰ	単位数	2　　単位	年次	1　年次
使用教科書（出版社）	高校生の美術1（日本文教出版）						
副教材等（出版社等）							

1．担当者からのメッセージ（学習方法等）

・感じたことから創造する「絵画・彫刻」、目的や機能から考える「デザイン」と「鑑賞」の分野について学習します。

・思いや見方、感じ方は人それぞれ違います。表現形式の特性や形態・色彩などについて学びながら、自分なりの感じ方や見方、表現を深めましょう。「鑑賞」を通して、見方や感じ方の違いを共有すると、さらに見方や感じ方に広がりや深みが増します。

・表現したいものが形にできるように、画材の使い方や色についての基本的な知識を学習します。

2．学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育て、美術文化についての理解を深める。

3．学習評価（評価基準と評価方法）

観点	a：美術への関心・意欲・態度	b：発想や構想の能力	c：創造的な技能	d：鑑賞の能力
観点の趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	制作の様子 ワークシート 鑑賞活動の様子	ワークシート アイデアスケッチ 制作途中の作品 作品	制作途中の作品 作品	ワークシート 発言内容

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元（題材）の評価規準	評価方法
1学期	鑑賞 絵画彫刻	高校生の美術とは	・オリエンテーション	○			○	a:美術の多様な表現に関心を持ち、これからの　学習活動に意欲的である。 b:対象を見つめて特徴をつかみ、構成などを工　夫している。 c:目的を理解し、画材の特性を生かして表現し　ている。 d:作品のよさや美しさなどを感じ取り、美術の働　きや作品などについて理解を深めている。	制作の様子 鑑賞活動の様子 ワークシート 作品
			・クロッキー	○		○			
	デザイン	色彩演習	・グレースケールの作成と明度による四季面構成		○	○			
			・色相環(基本色)の作図			○			
	絵画彫刻 鑑賞	手の鉛筆デッサン	・鉛筆を用いてのデッサン		○	○			
			・相互鑑賞	○			○		
2学期	絵画彫刻 鑑賞	アートガラス制作	・下絵作成	○	○	○	○	a:素材の特徴を理解するとともに、工夫をこらし主体的に取り組もうとしている。 b:表現形式の特性を生かし、形体、色彩などを工夫して表現の構想を練っている。 c:アクリル板や木の特性を理解し、ニードルや彫刻刀、アクリル絵の具などの道具の特性を生かして工夫を凝らし表現している。 d:他の生徒の作品のよさや美しさ、意図と表現の工夫を感じ取り、作品について理解を深めている。	制作の様子 制作途中の作品 鑑賞活動の様子や発言内容 ワークシート 作品
			・アートガラス制作		○	○			
			・額縁制作		○	○			
			・相互鑑賞	○			○		
3学期	デザイン 鑑賞	透視図法による色彩構成	・透視図法の練習	○		○		a:透視図法に関心を持ち、特徴や効果を理解しようとしている。 b:透視図法の特性を踏まえ、視点の動きなど視覚的要素を工夫して構想を練っている。 c:意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫している。 d:透視図法を用いた視覚的効果を感じ取り、表現方法の工夫などを読み取り、作品への理解を深める。	制作の様子 アイデアスケッチ 制作途中の作品 鑑賞活動の様子や発言内容 ワークシート 作品
			・アイデアスケッチ作成		○	○	○		
			・色彩構成の制作		○	○			
			・相互鑑賞	○			○		